

海外日本語教育

かい がい に ほん ご きょう いく

Q & A

このコーナーでは、海外で日本語を教えるときに、教師が直面すると思われる問題をとりあげ、質問に答える形で、読者のみなさんの参考になる情報を提供していきます。

Q

初級段階から楽しく効果的に読解の授業を進めるにはどうすればよいですか？

A

学習者が日常生活で「読む」ことが必要となる場面と関係づけて授業を計画しましょう。そのために、①読解素材の選び方、②読む前の準備と動機づけ、③読ませ方、④他の技能(話す、聞く、書く)への発展、の4点に考慮するとよいと思います。

日常生活との関係づけとは？

にちじょうせいかつ かんけい

実生活での「読み」は、「メニューを読んで注文する」「本を調べてレポートを書く」などのように、目的のあるコミュニケーション活動です。しかしながら、教室での「読み」は、語彙も文型も限られている初級の場合、文法や表現を「文字で確認する」ことに傾きがちです。このような「読み」も学習活動としては必要ですが、こればかりでは、実際のコミュニケーションに必要な読解力はつきません。初級でも、実際の「読み」の活動を意識・体験させるようにすることが大切です。これは学習者に満足感を与え、学習意欲を高めることにもなります。

読解の素材：どんなものを読ませるか？

どっかい そざい

初級段階からでも使えるものとして、レストランのメニュー、広告(例1)や簡単なパンフレット類などがあります。本物に似せて教師が作ってもよいです。このようなものから、情報をとらせるようにしましょう。

短い文章が読めるようになれば、日記文や手紙文(例2)、簡単な説明文などもよいです。

次のような市販教材も利用できます。

文化外国語専門学校編(1996)『楽しく読もう』1、2
文化外国語専門学校
山田あき子編(1990)『タスクによる楽しい日本語の読み』専門教育出版

動機づけ：読む前に何をさせるか？

どうき よ まえ なに

下の図は、読解の授業の流れを示しています。

読む前(準備活動)

- ・読む内容について興味を持たせる
- ・読むために必要な知識を確認する

読む

- ・目的をもって読む：スキミングやスキニング

読んだあと(発展的活動)

- ・話す、書く、調べるなど

読み始める前に、学習者を積極的に読みたいという気持ちにさせることが必要です。そのためには、学習者にも読む内容についてイメージを持たせたり、必要な語彙を確認したりします。この時、なるべく学習者が持っている知識を活性化させ引き出してやるようにします。次のような方法があります。

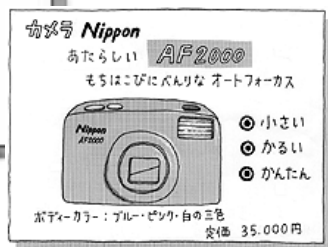
(1) 読解のテーマに関して学習者の経験や考えをきく。

「手紙」(例2)の場合なら、「夏休みにどんなことをするか」「どんなアルバイトをしたことがあるか」など、自分の場合について考えさせます。学生に母語を使わせてもかまいません。そのあとで、自分の経験や考えと対比しながらアルバイトの話を読ませれば、内容が理解しやすくなります。

(2) 内容に関係のある写真や図表などを見せて、わかることを話し合わせる。



例2. 「手紙」(国際交流基金『教科書を作るう』れんしゅう編149頁)



例1. カメラの「広告」(教師作例)

例

質問 1. この人はある有名な日本人です。絵を見てどんなことがわかりますか。

「田村亮子さん、柔道の選手、強いです」などがわかるでしょう。学習者が日本語で言えない時は、母語で言わせて教師が日本語で言いかえてもいいです。



質問 2. この人にどんなことを聞いてみたいですか。

「いつ柔道をはじめましたか。どうして柔道の選手になりましたか。どのくらい強いですか。」のような質問が考えられるでしょう。このような疑問を持つことによって学習者は、内容に関心を持ち、読む準備を整えるのです。

(3) 題名や文章の一部から内容を予測させる。

題名のある文章ならその題名から内容を予測させることができます。物語のようなストーリーのある文章であれば、登場人物やストーリーの一部から物語全体を想像させるのもおもしろい方法です。

例

質問 次の4つの文は、ある物語の中からとったものです。どんな順番に並べたらいいでしょう。

- ・むこうのほうに、六人のかさをかぶった人が見えました。
- ・おじいさんは、さいごのおじょうさんに じぶんのかさをあげて、うちへかえりました。
- ・おじいさんとおばあさんは、にもつをあげました。
- ・ある年のおおみそかに、おじいさんは かさ を五つまちへうりに行きました。

例4. 「かさじぞう」(国際交流基金『教科書を作ろう』
れんしゅう編253 - 254頁から抜粋)

みなさんは、どんな順番に並べますか。「おじいさんはだれにかさを売ったか、にもつのなかみ」について知りたいと思ったかもしれませんね。この興味がこの物語(読解文)を読みたいという気持ちにつながるのです。

(4) 内容理解に必要な情報(文化的背景など)を説明する。

高校生がアルバイトをしない国では「手紙」(例2)のアルバイトについて理解するのは難しいかもしれません。また、「手紙」の中の季節のあいさつや、「かさじぞう」(例4)にでてくる「おじょうさん、かさ(雨の時にさす傘とはちがう)」のような日本的なものには注意が必要です。このような場合は、それについて教師が説明

しておく必要があります。

どのように読ませるか?

* 読解のタスク

読む準備ができた学習者は、読みたくてうずうずしているはずですが、教師は、何を読みとるかという課題(タスク)をもう一度確認します。

次は、「手紙」(例2)の場合です。

問題1. ①だれからだれへの手紙ですか。

②何について書いてありますか。

③いつ書きましたか。季節はなんですか。

④手紙を書いた人の質問は何ですか。

問題2. アルバイトについて下の表に書いてください。

仕事	いつ	時間	お金の使い方
しごと		じかん	かね つか かた

まず全体を把握させ(問題1)次に細かい内容(問題2)に注意させます。これは、文章の初めから順番に逐語読みすることを避け、大意把握(スキミング)必
要な情報の探し読み(スキニング)といった読解の技能(スキル)を養うためです。

* 学習者同士の協力

「読み」は一般に自分のペースで行う個人作業ですが、準備活動や読んだあとの答えの確認は学習者同士で行わせるとよいです。他の人が「どう読み、どう考えたか」を知ることは、読解力を養うのに役に立つからです。

また、文章全体をいくつかに分けて分担して読ませた後、わかったことをお互いに報告させるのも、クラス活動を活発にするひとつのアイデアです。

他の技能への発展: 読んだ後で何をするか?

ほか ぎのう はつてん よ あと なに

「読み」を他の技能を使った活動へ発展させることは、実際のコミュニケーションでの「読み」の役割を認識させることにもなります。読解の素材や読む目的にもよりますが、たとえば、次のようなことができます。

(1) 読む 話す

- ・「広告」(例1): カメラを売る人とお客さんにわかれてロールプレイをします。
- ・「有名人」(例3): だれかが「田村亮子さん」になって、他の学習者がインタビューをします。
- ・かさじぞう(例4): 物語文を使って劇をします。

(2) 読む 書く

- ・「手紙」(例2): 返事の手紙を書きます。

このコーナーの担当: 藤長かおる(日本語国際センター専任講師)

このコーナーでとりあげてほしいことを教えてください